# 箱根駅伝

第94回東京箱根間往復大学駅伝競走は、4年ぶりに往路を制した東洋大が、2年ぶりに復路を制した青学大に1分29秒差をつけ、総合優勝を飾った。東洋大は通算3度目の優勝。青学大は2年ぶりの総合2位。東海大は3年ぶりの3位。神奈川大は2年ぶりの15位。今年の箱根駅伝を振り返る。

## 山の厳しさ 夢消え

### 神奈川大15位

昨年10月の出雲駅伝制覇という勢いを保ったまま、今年の箱根へ乗り込んだ神奈川大。2区の鈴木健（3年）が区間4位の力走を見せ、3区の越川（4年）が区間2位の走りで、トップの東洋大に1分40秒差まで迫る。4区の荻野（4年）が区間5位の走りで、トップとの差を1分12秒まで縮めたが、5区の山藤（3年）が1時間21分12秒の区間ワースト2の大ブレーキ。総合15位に沈んだ。

### 2区・鈴木健 区間4位「自分の力負け」

3区の越川にたすきを渡す神奈川のエース鈴木健（左）＝戸塚中継所

追い越すと思っていた2区。出雲で区間賞をとった2年生の鈴木健が、中継所の神奈川大の鈴木健、青学大の森田二ハイレベルな争いを展開したものの、鈴木の巧みな追さ引に中盤で振り切られ、区間2位に順位を上げたが、鈴木は力足りなかったと悔やむ。

エースがしびれる2区。出雲で区間賞をとった2年生の鈴木健が、中継所の神奈川大の鈴木健、青学大の森田二ハイレベルな争いを展開したものの、鈴木の巧みな追さ引に中盤で振り切られ、区間2位に順位を上げたが、鈴木は力足りなかったと悔やむ。

「前を追う、追われるレースになると思っていた。2区、木健のペースが上がらない。2位争いをしている青学大にも離された。区間賞を狙っていたが、区間4位。区間賞とは、区間1位を取ってたすきを渡すはずだったが、区間賞とは、区間1位を取ってたすきを渡すはずだったが、区間賞とは、区間1位を取ってたすきを渡すはずだったが、